

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経営戦略研究科・会計専門職専攻
大項目	2 教育内容
中項目	
小項目	2.0.1 教育内容
要素	<p>①教育課程が、社会的期待を反映し、理想とする会計職業人を養成する目的を実現することに資するものであること。</p> <p>②次の各号に掲げる授業科目群からの履修により、段階的な教育課程が編成されていること。</p> <p>(1)基本科目 (2)発展科目 (3)応用・実践科目</p> <p>③基準2-0-1②の各号のすべてにわたって教育上の目的に応じて適当と認められる単位数以上の授業科目が開設されているとともに、学生の授業科目の履修が同基準各号のいずれかに過度に偏ることがないように配慮されていること。また、会計大学院の目的に照らして、選択必修科目、選択科目等の分類が適切に行われ、学生による段階的履修に資するよう各年次にわたって適切に配当されていること。</p> <p>④各授業科目における、授業時間等の設定が、単位数との関係において、大学設置基準第21条から第23条までの規定に照らして適切であること。</p>

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。  
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。  
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。  
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 提供するカリキュラムが会計職業人の養成に資するものとして、各講義ごとの学生の到達目標を明らかにする。	→学生の到達目標を明示したシラバス数	D	C	B	B	A
2. 「公認内部監査人」資格取得を目的のひとつとした企業経理担当者養成履修プランの開発	→「公認内部監査人」を目的とする履修プランの作成・改訂状況	D	C	C	C	B
3. IT関連科目および英語コミュニケーションを体系的に学習するためのカリキュラムの構築	→IT関連科目・英語コミュニケーション科目のカリキュラムの設定構築状況	D	C	A	A	A

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教授会で各教員にアナウンスし、シラバスには学生の到達目標を明示するよう求めた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か ほぼすべてのシラバスに学生の到達目標が明示されている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も上記を維持する。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 具体的な履修プラン等は策定できていない。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学内セミナーとして公認内部監査人の講座を開講している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 現行の関連科目とCIA試験の範囲の対応関係を明確にした。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか IT関連科目および英語コミュニケーション科目について専攻会議にて検討した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か IT関連科目として「IT基礎」「IT統制」、英語コミュニケーション科目として「ビジネスコミュニケーション」「英文会計事例研究」を設定した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も上記を維持する。	☆
		その他	☆
			☆
備考		☆	